

夏の彩り



下町文化

第 184 号

平成 9 年 7 月 15 日

発行

江東区教育委員会
生涯学習部生涯学習課

江戸情緒が残る

下町の夏いろいろ

祭り・花火・七夕・海・キャンプ……それぞれの“想い出”をぎざんだ夏がまたやって来ました。みなさんも今年の夏はさまざまな計画を立てていることでしょう。

ところで、江戸の花火といえば両国の「川開き」が有名です。享保18年（1733）、当時江戸で流行した疫病による死者供養や災厄除けのために打ち上げられたのが川開きの花火の起源のようです。その後も幕末の動乱や戦時中などの一時期をのぞき、夏の風物詩として人びとに親しまれてきました。あなたも江戸情緒の残る「下町・江東の夏」をみつめてみてはいかがでしょうか。区内の行事予定は次のとおりです。

区内行事一覧

隅田川花火大会 7月26日 午後7時10分～8時30分
江東花火大会 8月1日 午後7時30分～8時30分
砂町銀座七夕まつり 8月7～9日

区内神社祭礼予定一覧

香取神社	8月10日例大祭
東大島神社	8月1～3日 1～3日納涼踊り 2・3日神輿渡御
猿江神社	8月14・15日例大祭
洲崎神社	8月3日例大祭
富岡八幡宮	8月14・17日 15日例大祭 17日神幸祭・二の宮神輿渡御
宇迦八幡宮	8月15・16日 15日宵宮 16日例大祭
志演神社	9月21日例祭
亀戸天神社	8月24・25日 24日宵宮 25日例祭
大島稻荷神社	9月19日例大祭

深川神明宮と富岡八幡宮は本祭りです。2面をご覧ください。

今年はお祭り

深川神明宮と 富岡八幡宮

深川神明宮 (森下1-3-17)

深川神明

宮付近は

「深川村発

祥の地」と

して知られ

ています。

慶長元年

(1596)

に、このあ

たりを開発

した深川八郎右衛門の名字をとって

名付けられたのが、「深川村」のは

じまりでした。これ以前から小祠が

あり、そこに八郎右衛門が神明宮を

勧請したと伝えられ、この地の惣鎮

守となりました。

今年3年に一度の本祭り。昭和

9年の製作で千貫神輿といわれる宮

神輿の渡御、氏子一二か町神輿勢揃

い、稚児行列などの行事が行われま

す。

祭礼予定は次のとおりです。

8月14日(木)〜17日(日)



深川神明宮の神輿渡御

14日 宵宮

15日 稚児行列

16日 宮神輿渡御

17日 町会神輿連合渡御

富岡八幡宮 (南砂7-14-18)

江戸時代の中頃から明治末期にか

けて、桜の名所としてにぎわったの

が富岡八幡宮(元八幡)でした。

当社は、すくなくとも寛文5年(1

665)には勧請されており、元八

幡の通称は、富岡八幡宮の元宮だっ

たという伝説に由来します。

本祭りは4年に一度で、24日には

文化10年(1813)に奉納され

た鳳輦神輿

の渡御が古

式豊かに行

われます。

そして宮神

輿の渡御に

町会の神輿

が各地域内

で合流しま

す。

8月22日(金)〜24日(日)

22日 氏子内各町会神輿・神酒所

23日 所蔵

24日 例大祭・宵宮祭

24日 神輿渡御



富岡八幡宮の神輿渡御

水の不思議を求めて

東京都水の科学館

—— 現代水事情を探る ——

私たちの生活に欠かすことのでき

ない「水」。水の科学館は「水と水

道のすべてを見つめる水のミュージ

アム」として、今年の5月21日にオー

プンしました。夏に向けて涼しい気

分を味わっていただくために、その

概要をご紹介します。

人は、海や川など自然のなかで水

と触れ合う一方、水道によって生活

用水としても使用しています。すで

に江戸時代には、都市建設に際して

石樋・木管・竹管などを使用し上水が

引かれていました。江戸では、神田・

玉川の両上水が有名で、木樋で各所

に水を供給していたようです。

時代は下って現代。高度に発達し

た社会では、水や水道といかに付き

合っているのでしょうか。その答え

を探しに水の科学館に行きました。

建物の正面玄関に入って、まずパ

スポーツカードを作成(ゲーム用)。

ロビーには水とその周辺に数種の動

物を型どった「水のオブジェ」があ

ります。2階にはアクアテクノロジ



(水の力)、アク

アラウンジ(暮

らしと水道・体

と水の関係)、

3階にはアクア

プラネット(地

球と水の関係)、

アクアラボラトリ(水の不思議を

科学実験)があります。なかでもア

クアプラネットでは、川下りを座席

シートで体感できます。また、近く

の有明クリーンセンター(スポーツ

センター内)5階には「見たい知り

たい下水道の秘密」と銘うった有明

処理場見学説明室もあります。

日頃、何気なく使っている水。こ

の機会にもう少しその不思議に迫っ

てみたいと思いませんか。

休館日・最寄駅など詳細について

は左記にお問い合わせ下さい。

問合先 東京都水の科学館

03-3528-2366

(入場料は無料)

文化財保存のあり方

—富士信仰と富士塚(2)—

江東区文化財保護審議会委員

平野榮次先生

富士塚は、人造の小型富士です。土を富士山型に盛ったものと、自然の小山や古墳などを利用したものがあります。側面に富士山から取り寄せた黒ボクという溶岩をはりつけています。

安永8年(1779)、身祿の直弟子・高田藤四郎が高田水稻荷社の境内(現新宿区戸塚町)に富士山の写しを築いたのが始まりとされ、江戸時代から昭和初期にかけて、江戸とその周辺各地に富士塚がつくられました。昭和50年代に行われた調査では、東京23区内に五十五基の富士塚が現存していましたが、そのうち約半数は江戸時代に築かれたものです。しかし、色々な文献により、江戸時代だけで五十基はつくられていたと考えられます。

富士塚は、ほとんどが神社の境内につくられましたが、場所をとるため、だんだんと姿を消していきました。特に、昭和30年代から40年代にかけての高度経済成長期には、神社の都合や、富士講と富士塚に対する関心の低さなどから、富士塚が取り壊されるケースが多くなってきたようです。こうした状況を受けて、昭和53年、文化庁は民俗文化財としての富



土塚の調査を、日本常民文化研究所を通じて岩科小一郎氏を中心とした「富士講研究会」に委託しました。富士講研究会は、東京、千葉、埼

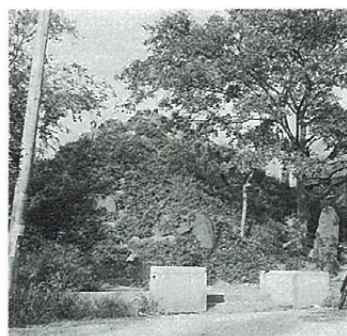
玉、神奈川の富士塚について、二冊の調査報告書を作成しました。それをもとに文化庁は、昭和50年代後半、東京都で三基「下谷坂本富士(台東区、文政11年(1828)築造)、江古田富士(練馬区、天保10年(1839)築造)、高松富士(豊島区、文久2年(1862)築造)、埼玉県で一基、合計四基の富士塚を国指定重要有形民俗文化財としました。これは、江戸時代につくられ、場所の移動がなく形も崩れていないもの、つまり築造当時のままで保存されているものを選び、指定されました。こうしてやっと富士塚の価値が見直され、関心が持たれるようになったのです。昭和60年代に入ると、東京都が国指定の富士塚につくものとして、千駄ヶ谷富士(渋谷区、寛政元年(1789)築造)、中里富士(清瀬市、文政8年(1825)築造)を都指定文化財とし、その後、各区で指定・登録されていきました。その総数は東京都で五十基ほどです。

亀戸の富士塚(亀戸9、浅間神社)は江戸時代後期に富士塚となったものです。この塚はもとが富士塚ではなく、浅間神社の社伝によると、大永7年(1527)弟橘姫の斧塚の上に社殿を建て、塚を富士山にみたてたようになったと伝えられています。延宝8年(1680)の「江戸方角安見図」の亀戸の図には、社殿と一つ一つの建物を備えた「富士」の名前が見られます。また、亀戸の富士塚は、富士講ができる前から行われていた、江戸の年中行事の「富士参り」(旧6月1日)の一つとなっていました。江戸時代後期に、身祿派の富士講である丸不二講の人々がこの塚を富士塚につくりあげ、信仰の場としたのです。亀戸の富士塚は、明治末の写真を見るとかなり大型の富士塚であったことがわかりますが、塚の下部がほとんど埋まっています。昭和5年から9年にかけての現社殿造営に伴い、上部を削り取られました。しかし、中腹部は江戸時代のままの富士塚であり、場所の移動もなかったため、平成7年度に区の有形民俗文化財に指定されました。

砂町の富士塚(南砂7、富岡八幡宮)は、天保4年(1833)に築造されたもので、山吉御水講(通称「丸す講」)が信仰の場としました。国指定の富士塚より古いものですが、昭和8年にそれまで土だけだった側面に黒ボク石がつけられて改造を受け、昭和36年に移築されています。この富士塚は築造された当時のままの姿ではありませんが、山吉丸す講の人たちが今も信仰を守っているものとして価値があり、区の登録有形民俗文化財となっています。

深川の富士塚は、文政3年(1820)に富岡八幡宮(富岡1)境内に築造されました。「東都歳事記」に絵が載っていますが、かなり高い富士塚であったようです。この富士塚は、昭和40年頃に取り壊されました。昭和30年代から40年代は富士塚受難の時代で、最古のものである高田富士(安永8年(1779)築造)や、目黒新富士(目黒区、文政2年(1819)築造)などが消滅しています。今後はこういうことがないよう、富士塚の価値を認め、地域の方々が守っていただきたいと思います。

戦後は富士講そのものも社会観念の変革によって衰えていきました。その中で富士塚が破壊され、富士講の祭具や行事が失われていったのです。富士信仰、富士講関連の文化財は各地にはそれほど残ってはいませんが、少なくとも今あるものは保存し、新たに発掘して、貴重な民衆信仰の文化財として後世に伝えていきたいと思っています。(おわり)



富岡八幡宮の富士塚(昭和30年頃)

おしらせ

江東史談会例会

日時 7月25日(金) 午後6時
会場 深川老人福祉センター
参加 自由、会費1000円
連絡先 細田隆善(3641)5780

芭蕉記念館から

俳句会

日時 7月22日(火) 午後1時30分
(集合1時15分)

会場 芭蕉記念館2階研修室

内容 兼題 夏季雑詠3句

席題なし

対象 区内在住・在勤の方

定員 50人

費用 無料 句報送付希望の方は80

円切手貼付宛先明記の封筒をお持ちください

申込 7月21日までに電話で

夏休み子ども俳句教室

日時 8月8日(金) 午前9時30分

会場 芭蕉記念館2階研修室

内容 俳句ってなんだろう、ほか

対象 区内在住小学生

定員 30人(申込順) 費用 無料

集合 午前9時20分(筆記用具持参)

申込 8月7日までに電話または窓

口へ

◇芭蕉記念館 江東区常盤1-6-3

3631-1448

たくみのやから
工匠館

工匠番館の「伝統の技 実演公開」は、8月はお休みいたします。

昔の話を聞いてみたい?

—— 古老の話を聞き取る民俗調査団員の募集です ——

民俗調査団では、深川東部を対象とした聞き取りを行っており、

団員には区内在住・在勤の方々に参加をお願いしています。ご自分の住む町、勤めている町で営まれてきた「暮らし」に興味がある方

は、ぜひご参加ください。はじめの方でも大歓迎です。

◇問合せ 生涯学習課文化財係

民俗調査団事務局

3647-9111

(内) 3361

『おはなし江東区』

文化財係窓口で販売中

『おはなし江東区』は、平成4年から8年までに、小学校の地域教材として作られたものです。保護者の方々にも好評だったため再版し、5冊セットで購入できるようにしました。知っているようで知らなかった江東区の素顔に出会える本です。

『川と橋の話』では、新大橋や永代橋といった歴史ある橋から、町の歴史を伝える小さな橋、今ではバス停にのみ名前を残している橋のことなどが、地域のひと共と過ごした思い出とともに書かれています。

『木材の町新木場』では、木場の歴史から現在の新木場の様子、貯木や製材の方法、新木場が抱えている問題など、日本の「木の文化」を支えてきた木場について詳しく知ることができます。

『産業の歴史と移り変わり』では物資の集散地として、或いは新鮮な野菜や魚介類の供給地としてなど、江東区のさまざまな側面から発達した産業から、現在の技術の最先端をいく研究所まで幅広く紹介しています。



『伝統工芸を受け継ぐ人々』では親から子へ、子から孫へと伝えられてきた工芸技術について、保

持者の方の会話を交えて紹介しており、職人さんの生き方の一端が窺えます。

『江東区のまち』では、時代とともに移り変わってきた町の様子を軸に、公園や図書館等の施設を通して、町の特徴を知り、未来の江東区の姿を考えていくことができます。

5冊組 1600円

『牧野家文書』四(1000円)

『江東区文化財研究紀要』第8号(700円)も昨年度に引き続き刊行しました。

おわびと訂正

前号183号の計報で菅野銈太郎氏の住所が間違っていました。おわびいたしますとともに、次のように訂正いたします。

森下5-16-10